

南相馬市立大甕小学校 実践研究テーマ「互いに認め合い、学び合いながら、協働して解決する子どもの育成」

学校教育全体で取り組むために大切にしたこと

- 学校教育全体で「身に付けたい力」の精選・重点化
・キャリア教育全体計画の見直しと改善
- 学校行事の意義を、子ども主体の視点から捉え直す
・キャリア教育年間計画の作成



エコバッグの染め出し方法について熱心に説明を聞く子どもたち



学習発表会の音楽劇で元気に自分を表現する子どもたち

○ アンケートを実施したところ、基礎的汎用的能力の4つの身に付けたい力の中で「課題対応能力」と「キャリアプランニング能力」に課題があることが分かった。これらの実態から、特に身に付けたい力を「他者と協力して、物事を進めていく力」、「将来とのつながりを考える力」と設定し、全職員が意識しながら全ての教育活動を進めてきた。

○ 学校行事を「身に付けたい力」の視点から捉え直し、教師主導で企画・立案する学校行事から、子どもたちの主体性を尊重した運営に転換した。自分の役割を意識しながら、友だちと協力して学習発表会を創り上げる姿が見られた。

特別活動の取組について(実践研究発表会)

- 題材名「おそうじのしかた」 第1学年学級活動(3)
- ねらい
学校や教室のきれいな環境を保持することへの意欲を高め、自分の考えを基に友達と交流する活動を通して、学校や教室をきれいにするための自己目標を決めることができる。
- 概要
学校をきれいにするためにはどうすればいいか話し合い、自己目標を決めたり友達と交流したりすることを通して、課題対応能力や人間関係形成・社会形成能力の育成を図るようにした。



考えを交流し、解決方法を紹介し合う子どもたち



交流後にこれから自分が頑張ることを書く子どもたち

○ 各自が考えたきれいにするための方法を話し合った。自分と同じところ、違うところを意識して交流し合うことで、友達の様々な考えに気付くことができた。

○ 交流したことを基にして、これから頑張ることをワークシートに書く活動を取り入れた。授業後は1週間毎日振り返りを行い、目標に向かって根気強く頑張るよう支援した。活動の後には、子どもたちの頑張りを見取り、そのよさを価値付けた。そうすることで、達成感や成就感を高め、次の活動につなげられるようにした。

南相馬市立大甕小学校 実践研究テーマ「互いに認め合い、学び合いながら、協働して解決する子どもの育成」

各教科等の取り組み(実践研究発表会)

- 単元名「拡大図と縮図」 第6学年算数科
- ねらい
拡大図、縮図の意味、対応する辺の長さや角の大きさについて理解することができる。
- 概要
大きさの違う四角形の辺の長さや角の大きさについて調べ、分かったことを交流することで、拡大図や縮図の特徴が理解できるようにした。子どもが見出した課題を友達と協力しながら、解決する過程において、課題対応能力や人間関係形成能力の育成につながるようにした。



測った辺の長さや角の大きさについて話し合う子どもたち



グループで話し合った内容を発表用シートにまとめる子ども

- 自分たちで見出した「問い」を解決するために、測った長さや角の大きさについて互いの結果を比べたり、認め合ったりする姿が見られた。一人の子どもの「あれ?」「どうして?」を全体に共有することで、子どもの「〇〇したい(解決したい)」を引き出す教師の働きかけが大切である。

- 個人やグループの思考過程を記録し、全体共有で活用する場を設定した。そうすることで、子どもたちの自己有用感や新たな課題へ対応しようとする意欲を高めることができた。

実社会や地域とつながるキャリア教育

～外部講師や地域人材を招聘した教育活動～



看護師に点滴の仕方について意欲的に質問する子どもたち



講師の先生と一緒に演目「集合」を演奏する子どもたち

- 新潟大学との連携による「ナースのお仕事」の出前授業を第6学年で実施した。将来の職業を決めるにあたり、様々な体験や学習が必要であることや、夢に向かって一直線ではなく、回り道をしてよいことを教授や看護学生の話から理解することができた。実社会で働く看護師の仕事について関心が高まった。
- 相馬野馬追祭法螺貝役の地域の方に講師を依頼し、法螺貝の演奏体験を行った。地域の伝統に目を向け、そこに携わる方々への憧れを抱くよい機会となった。

○ 研究のまとめ

子どもの実態を捉え、重点的に身に付けたい力を意識しながら、キャリア全体計画の見直しや年間計画の作成を行うことにより、基礎的汎用的能力を教育活動全体でどのように育ていけばよいかを全教職員で共通理解を図ることができた。

今後は、それらの身に付けたい力を全教職員だけでなく、子どもや保護者、地域の方と共有できるように可視化すること、また学校や学級等の小さな社会で一人一人が役割を果たす活動を大切にすることで、キャリア教育のさらなる充実を図っていきたい。